

1. 授業の概要(ねらい)

【哲学の起源と西洋哲学の流れ】

「哲学」という知の営みは、古代ギリシアに端を発し、その後の西欧世界のあり方を方向づけてきた。さらに、この方向付けは西欧世界に限定されずに、世界化して現在に至っている。では、そもそも哲学の起源、その原初においてなにが、どのような仕方でも問題とされ論じられていたのか。本講義は、このような観点から古代ギリシア哲学から話を始め、その後、どのような流れをたどり現代に至るのかを概観することによって、哲学の起源に迫るとともに、近世以降の哲学をも視野に入れてともに思索する時間としたい。「哲学」の営みは、たんに知識の獲得を目指すことにあるのではなく、自らが考えることをその本務とする。この講義はそのきっかけとなることをも目指している。

2. 授業の到達目標

- ・西洋哲学で扱われた問題の意義を理解し、その可能性や現代的意義などを説明することができる。
- ・講義で扱った主題を手引きとしながら、自ら考え、適切な語句を用いて表現することができる。

3. 成績評価の方法および基準

- 平常点(30%)講義への積極的参加と、リアクションペーパーへの回答。
- 試験(70%)試験欠席者は0点の評価となるので注意すること。

4. 教科書・参考文献

教科書

とくになし

参考文献

適宜、授業内で紹介する

5. 準備学修の内容

- ・講義内で指示した参考書に関しては可能な限り読んでおくこと。
- ・前回の講義に出てきたキーワードをノートにまとめておくこと。

6. その他履修上の注意事項

- ・欠席や遅刻は止むを得ない場合は例外として、定時には着席していること。
- ・必ず学生証を所持するようにすること。
- ・受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。
- ・授業計画はあくまで計画であるため、適宜変更する可能性がある。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション(講義の概要、テスト関係の説明、「哲学」への導入)
- 【第2回】 哲学の起源の背景としての、古代ギリシアの世界観
- 【第3回】 ミレトス学派の思想(思想の発展、展開)
- 【第4回】 ソクラテスの思想:無知の知について
- 【第5回】 ソクラテスの思想:対話としての哲学
- 【第6回】 プラトンの思想:イデア論について
- 【第7回】 プラトンの思想:洞窟の比喻について
- 【第8回】 デカルトの思想:方法的懐疑について
- 【第9回】 デカルトの思想:心身二元論について
- 【第10回】 カントの思想:現象と物自体について
- 【第11回】 カントの思想:カント倫理学について
- 【第12回】 ハイデッガーの存在論:『存在と時間』の問題
- 【第13回】 ハイデッガーの言語思想
- 【第14回】 21世紀の哲学へ向けて
- 【第15回】 総括